

Rio+20



2012/6/20
佐久間弘行
横尾愛羽

発表の流れ

1. 経緯

2. リオ+20

3. 考察

リオ+20とは

国連持続可能な開発会議

- 目的: 持続可能な開発に関する新たな政治的コミットメントの確保
- テーマ
 - I) グリーン経済
 - II) 持続可能な開発に向けた国際的調整をどう改善すべきか



RIO+20
United Nations
Conference on
Sustainable
Development

これまでの軌跡

1972年 国際連合人間環境会議(ストックホルム会議)

1982年 UNEP特別会合(ナイロビ会議)

1992年 環境と開発に関する国際連合会議(地球サミット)

2002年 持続可能な開発に関する世界首脳会議(第二回地球サミット)



1972年 国連人間環境会議 (ストックホルム会議)

- スtockホルムで開催
 - 国連による初の環境問題に関する会議
- 「かけがえのない地球(Only One Earth)」
- 113カ国(首脳は2カ国のみ)、約2万人が参加
 - 参加主体: 政府、自治体、学術研究機関、NGO、環境団体、マスコミ等々



世界的な環境問題への関心の高まり

- 1950年、60年代の急速な経済成長によって
大気汚染や廃水、廃棄物の問題等が顕在化
- 途上国における環境問題
- 1962年『沈黙の春』、レイチェル・カーソン

ローマクラブ

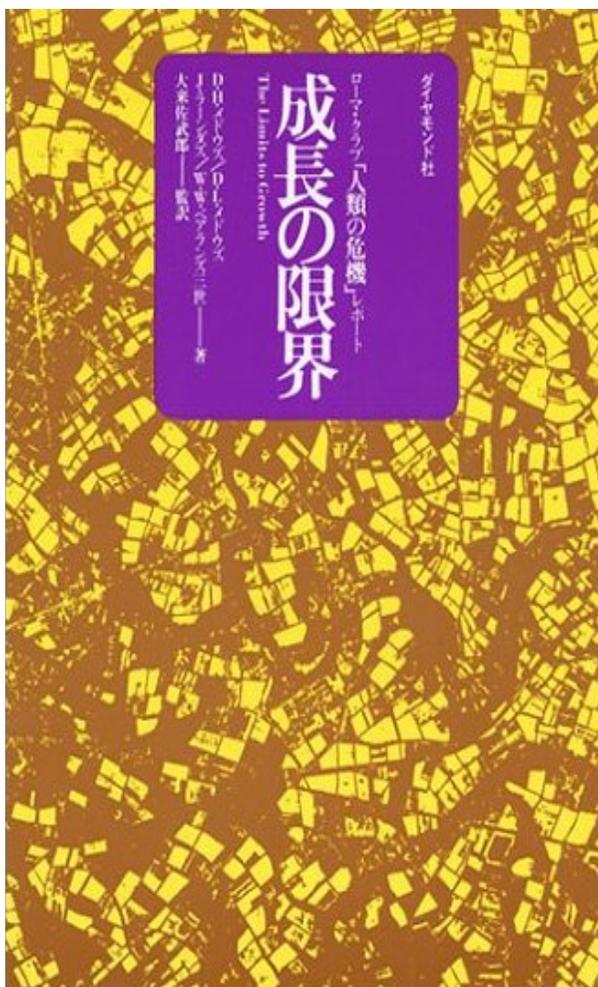


- 1970年3月設立
- スイス法人
- 民間のシンクタンク
- ローマにて初会合

『転機に立つ人間社会』(1974)

『国際秩序の再編成』(1976)

『浪費の時代を超えて』(1976)



- 人口増加や環境汚染の傾向が続けば地球上の成長の限界は100年以内に訪れる
- 「人は等比級数的に増加するが、食料は算術数的にしか増加しない」

成果

1. 「人間環境宣言」「行動計画」の採択

⇒環境問題に対する取り組みの原則

2. 国連環境計画(UNEP)の設立

⇒国連の中で環境問題を専門的に扱う機関

課題

- 南北の対立を並列的に宣言に盛り込む

⇒ 先進国：環境保護を優先すべき

途上国：将来の不確かな必要性よりも経済発展を優先すべき（“We want pollution”）

1982年 UNEP特別会合 (ナイロビ会議)

「過去10年間に、新たな認識が生まれた」

開発途上国:

自国の資源を将来的にも確保するために、環境問題の解決が必要と気付く

+

先進国:

環境破壊は浪費的な消費の他、**貧困**によっても起こる

↓

南北共通して取り組むことの重要性！！

今後の地球規模での環境問題に対する取り組みはどうあるべきか、の戦略策定をする特別委員会を国連に設けるべきである by Japan

↓

環境と開発に関する世界委員会(WCED)の設立。

環境と開発に関する世界委員会 (WCED)(1984～1987年)

「Our Common Future(われら共有の未来)」

将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことがないよ
うな形で、現代のニーズも満足させること



「持続可能な開発」

1992年 環境と開発に関する国連会議 (地球サミット)



- リオデジャネイロで開催
人類史上例を見ない大規模な会議
- 180カ国が参加
- 約100カ国の元首や首相が集結
- 約4万人が参加

成果

- リオ宣言

- アジェンダ21

⇒リオ宣言を実施するための具体的行動計画

- 気候変動枠組み条約

- 生物多様性条約

- 砂漠化防止条約の
早期策定の決定

- 森林保全に関する原則

多くの参加国がこれらの条約に会期内に調印

リオ宣言

- 国際的に「持続可能な開発」を実現するための原則

＝開発する権利＋環境に損害を与えない責任

1. 共通だが差異のある責任
2. 予防原則
3. 各主体の役割（女性、青年、先住民等）
4. 開発の権利と世代間公平

課題

- 経済成長を伴う環境政策に偏りがち
=近代化をよしとする風潮が広がってしまった

例：アメリカ⇒温暖化防止条約の修正を要求

2002年 持続可能な開発に関する世界首脳会議 (第2回地球サミット)



- ヨハネスブルクで開催
- 191カ国、約6万人が参加
- アジェンダ21の振り返りと今後の課題

成果

- **実施計画**

- アジェンダ21を更に推進するための方策

- **ヨハネスブルク宣言**

- 持続可能な開発に向けた各国の首脳の決意表明

- **タイプ2・パートナーシップ**

- 多様な主体の連携によるプロジェクトの約束文書

課題

- 準備会合時点での資金問題等で南北が決裂
「先進国はわれわれの国の資源を使い、繁栄してきた。
発展途上国が資金問題で先進国に抵抗したのは当然だ」
- 数値目標の妥協により具体性の欠落

経緯のまとめ

1. スtockホルム会議

— 国際的に環境保護に取り組むべき(しかし南北間で温度差)

2. ナイロビ会議

— 地球規模で取り組む必要性の認識⇒「持続可能な開発」の登場

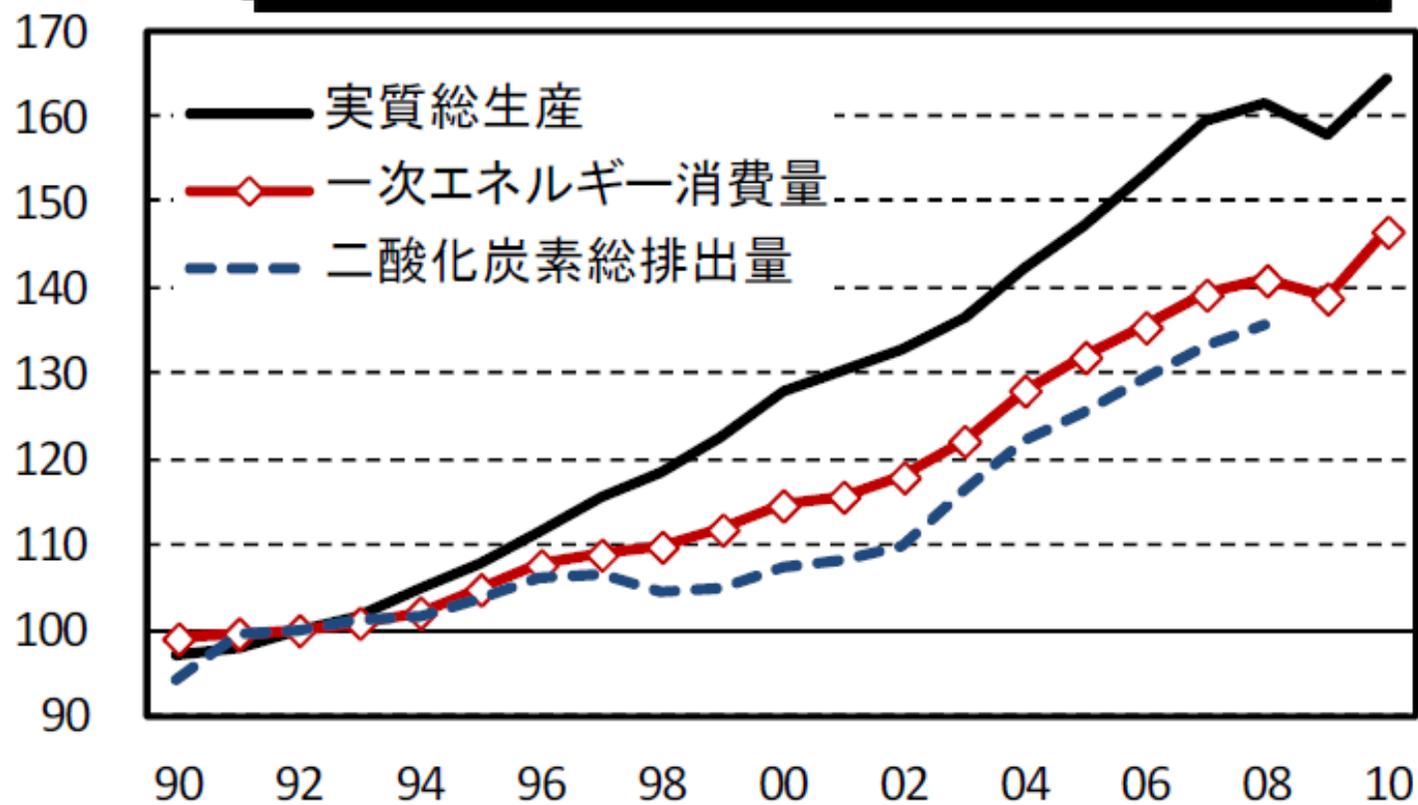
3. 第1回地球サミット

— 「持続可能な開発」実施のためにアジェンダ21、条約策定⇒経済発展＋環境保護

4. 第2回地球サミット

— アジェンダ21をより推進したい⇒具体的な数値目標はあまり設けられず…(失敗??)

(92年=100) **図表1 世界総生産とエネルギー消費(92年比)**



- 現在70億人を数える世界人口は、2050年までに90億人に達する。
- 現在、世界の5人に1人にあたる14億人が、1日1ドル25セント以下で生活している。
- 世界で電気を利用できない人々は、15億人に上る。
- トイレがない人々は、25億人に上る。
- およそ10億の人々が、日々飢えに苦しんでいる。
- 気候変動に歯止めがかからなければ、生物種全体のうち、3分の1以上絶滅する恐れがある。

Rio +20



RIO+20

United Nations
Conference on
Sustainable
Development

- 約120人の首脳、
5－10万人が参加予定
- 地球サミット開催後の
20年間の振り返り

+

さらなる持続可能な開
発の推進

**持続可能な社会構築に向けた国際的な
枠組みを再構築しよう！！**

テーマ(予定)

①グリーン経済

— 経済成長と環境を両立する経済活動

②持続可能な開発に向けた国際的調整を どう改善すべきか

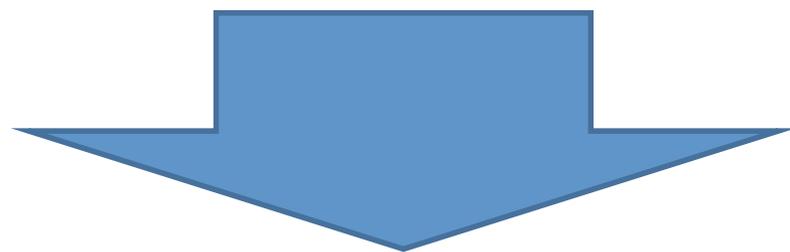
— 断片化している制度、枠組みのガバナンスを強化(持続可能な開発のためのアンブレラ組織設立、UNEPの強化など…)

グリーン経済の課題

- 途上国への支援の具体的な仕組みの確立
- グリーン保護主義
- グリーン経済のプラットフォーム

日本版グリーンニューディール政策 (2009年4月)

- エコカー補助金、家電エコポイント、住宅エコポイント
- 太陽光発電購入補助金、再生可能エネルギー全量買取制度等々



リオ+20の「グリーン経済」とはそぐわない可能性？
(短期的な消費拡大目的、特定分野に偏っている・・・)

直近のニュース

・朝日新聞 2012/06/18
夕刊ページ2

- ・ 宣言の合意は4割程度
 - ・ 途上国は援助を求めるが、財政難の先進国に余力は乏しい。
- ⇒余力のある国のみグリーン経済移行??



考察

- 環境政策の「二の次」感
- グリーン経済への期待

写真のソース

1-<http://2chfootball.net/2011/03/post-1596.html>

3-<http://rio-20.org/>

6-http://eco.nikkeibp.co.jp/style/eco/column/tsukio/081208_ryoritsu/index2.html

8-<http://www.clubofrome.org/>

9-http://www.amazon.co.jp/gp/product/images/4478200017/ref=dp_image_text_0?ie=UTF8&n=465392&s=books

14-Wikimedia commons

20-Google Map

24-<http://rio-20.org/>

26-<http://www.nochuri.co.jp/report/pdf/f1202ar2.pdf>

参考文献

- リオ+20 とグリーン経済の動向 寺林 暁良
<http://www.nochuri.co.jp/report/pdf/f1202ar2.pdf>
- 地球環境政策 地球サミットから環境の21世紀へ エルンスト.U. フォン.ワイツゼッカー 1994 監訳 宮元憲一、楠田貢典、佐々木 建
- 地球環境キーワード辞典 地球環境研究会 2003 4訂版
- リオ+20におけるグリーン経済の論点 財団法人地球環境戦略研究機関 2012年2月
- 環境白書
- 外務省HP
- リオ+20 <http://rio-20.org/>
- 地球サミット2012 <http://earthsummit2012.jp/home.html>
- 国際青年環境NGO A Seed Japan
<http://www.aseed.org/rio-10/report/ecology.htm>